

『こつこつしやうたいの おじさんおばさんありがとう』



三谷なごみさん

私は、今までそばにいた人がいなくなるなんてことを考えたことがありませんでした。その方のお話を聞くと交通事故はあまりに、怖く悲しいことでした。

また、その方は、「交通事故で死亡した人がいない日は一日もない」ともおっしゃっていました。この話を聞いたときは、びっくりしました。そして、改めて考えたことは、交通事故の恐ろしさです。一瞬にして命を奪うのです。本当に気をつけなければならぬと思いました。

これから交通事故を防ぐため、一人でも多く安全について考えてほしいです。

私はこの講話でたくさんの方のことを学び、事故がどれだけ怖いものかを改めて考えることができました。少しでも、事故を少なくするために、私も含め、一人一人が注意しなければならぬと強く思いました。一人一人が心がけるだけで少し変わるかもしれません。ちょっとした不注意が、人の命を奪うのです。

自分の家族、友達、大切にしている人を失う悲しみは、他人にとつてはなんとも感じないかも知れません。でも、身内の人は、どれだけ悲しみ苦しむのでしょうか。

相手の気持ちについて考えてみたり、自分がそうになったらどうかを考えてみたりして、交通事故に遭わないようにしたいと思います。

あさ、がっこうにいくとちゆうにおまわりさんみたいなふくをきて、あかくひかるぼうをもっているおじさん、おばさんがたっています。

わたしが大きなこえで「おはようございます」とあいさつをすると、にっこりわらいながら「おはようございます」といつてくれます。そして、あかくひかるぼうをつかちてわたしたちがあんぜんにとろろをわたれるようにしてくれます。

おとうさんにきいたら「そのおじさんやおばさんはこうつうしどうたいのひとたちだよ。みんながあんぜんに、こうつうじこのないようにみまもつてくれているんだよ」とおしえてくれました。

わたしたちが、がっこうにいくときやかえるとき、あんぜんにあるいてこられるのも、こうつうしどうたいのおじさんおばさんがみまもつてくれているからなんだなあとおもいました。

くるまをうんでんするひと、それをみてスピードをおとしたりするのだから、交通指導隊のおじさんとおばさんはすごいとおもいます。

いつもこうつうあんぜんのためにがんばつてくれてありがとうございます。

わたしも、じてんしやにのるときや、あっているとき、おうだんほうどうをわたるときは、いそがないでマナーをまもり、ゆとりをもつてこうつうあんぜんにきをつけていきたいとおもいます。

『左右をよくたしかめて』



山田学飛さん

ぼくは、お母さんとのしるに買い物にかけました。アクロスというひろいちゆう車場のあるところですよ。

休みの日だったので、たくさんの方がとまっています。

ちゆう車場からスーパーに行くまで道があります。ぼくは、そこをわたろうとしました。車が来ているのに、ぼくはせんぜん気がつきません。お母さんが「あぶないつ」と言つてぼくの服を引つぱりました。お母さんのおかげで車に引かれなくてすみました。お母さんが声をかけていなければ、ぼくは車に引かれてしまつていたと思います。

一、二年生のときに、交通安全教室で横断歩道のわたり方や道の歩き方をべんきようしました。左右をよく見てわたることは頭ではわかつています。でも、楽しい買い物のことを考えていると、まわりを見ることをすつかりわすれてしまいます。ちゆう車場の中だからといって安心しないで、やつぱり左右をよく見てわたらなければいけないなあとあらためて思いました。

左右をよくたしかめなければいけない場面は毎日の行き帰りにもあることに気がつきました。それはスクールバスののりおりです。学校についたときは、じどうげんかん前にとまります。学校の中なので、安心してしまいますが、ときどき車が通るので、バスから降りるときはやつぱり左右を見てたしかめなければならぬと思いました。家に帰つた時も、早く遊びたいと思うといそいでしまうので、左右をかくにんしながらゆつくりおりにしたいと思います。どんなときでも、落ち着いて左右をよくたしかめることに気をつけて過ごしたいと思つています。

『交通安全について思つこと』



佐々木淳貴さん

ぼくは、車にひかれそうになつたことがあります。友達の家遊びに行こうとして、自転車に乗つて、カーブを曲がつたところで車にぶつかりそうになつたのです。ぼくはびっくりしてあわてて止まりました。ぶつからないですんだときは、本当にほつとしました。あとで、アキレスけんのあたりにすりきずができていのに気がつきましたが、とても軽い傷だったので良かったと思つていました。そして、カーブを曲がるときは、行きたい方向から車が来ないかどうか、しつかり見ればよかつたと深く反省しました。

九月に町交通安全パレードがありました。ぼくたち藤小も、こてき隊として参加しました。

その時町長さんから「今年は、すでに二十六件もの事故が起きているが、藤里町は、秋田県内ではまだ一番事故の少ない町である」というお話がありました。県内で一番事故が少ないなんて、藤里町はすごいと思つていました。でも、少しでも事故が起きていることが残念だなと思つていました。

ぼくは、来年は事故が二十件以下になるといいなと思つてます。そして、今年より来年、来年より再来年と、少しずつでいいから事故をより一層減らせる藤里町であつてほしいです。

事故を減らすには、町民一人一人の心がけが大事です。もちろん、僕も気をつけな